

## 平成21年度 自己評価・学校関係者評価

### 自己評価（その1）

1 学校教育目標	創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。		
2 評価する領域・分野	安心・安全な学校生活（施設・設備、防災、医療）		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療機関との連携による健康管理」「緊急時の対応」については、93%の保護者から高い評価を得ている。「施設・設備の安全管理」については、86%の保護者から高い評価を得ている。</li> </ul> <p>「生徒対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全への配慮」については、97%の生徒から高い評価を得ている。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の健康・安全に配慮した教育環境のより一層の充実</li> <li>・傷病事故等の危機管理体制の確立</li> </ul>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>&lt;環境整備部を中心にした施設・設備の管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具や施設・設備の定期的な点検を実施するための組織づくり</li> <li>・遊具の扱い方を周知徹底するための、職員研修会の計画・実施</li> </ul> <p>&lt;体育安全部・渉外部を中心にした緊急災害への対応組織づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急災害時の対応訓練の実施</li> <li>・「緊急カード」「非常食・水」の校内設置</li> </ul> <p>&lt;保健部を中心にした医療的ケア、医療機関との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭、看護講師との連携と医療的ケア検討委員会の実施</li> <li>・児童生徒の傷病事故を想定した緊急対応訓練の実施</li> </ul> <p>&lt;不審者の侵入に対応する組織づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者侵入時の対応訓練の実施</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 毎月の安全点検日における、全職員による施設・設備の点検の実施</li> <li>(2) 大型遊具を中心とした安全使用・点検に係る職員の共通理解の徹底</li> <li>(3) 避難訓練、緊急対応訓練等を児童生徒の実態に応じたグループごとの実施</li> <li>(4) 医療的ケアに関する研修と緊急医療体制についての共通理解の徹底</li> <li>(5) 事故発生後の状況を全職員へ連絡し、再発防止に努めること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全職員による安全点検と点検内容の妥当性。点検後の適切な処置、処理の実施状況</li> <li>(2) 児童生徒に応じたグループ研修会や対応訓練の実施及び改善の状況</li> <li>(3) 既に発生した事故と同様の事故等の再発状況</li> </ul>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、全職員により校舎・設備の安全点検を行った。</li> <li>・学校全体で3回の避難訓練を実施した。寄宿舎や、児童生徒の実態に応じた小グループごとに避難訓練を実施した。</li> <li>・不審者侵入の対応訓練に取り組んだ。</li> </ul>	<p>「安全配慮義務」について意識を持って取り組めたか。</p> <p>予想される危険性やそれをどうしたら未然に防ぐことができるかなど、職員間で共通理解した上で取り組めたか。</p>	<p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> A    B    C    D  A    <input type="checkbox"/> B    C    D </p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医・看護講師を講師として、医療的ケアに関する実技研修を実施した。</li> <li>・新型インフルエンザ対策として、手洗い、うがい、検温、マスクの着用を繰り返し呼びかけた。</li> <li>・「健康観察週間」を設け、児童生徒の健康について再点検することに心がけた。</li> <li>・新しい救急体制での訓練を行った。</li> </ul>	<p>訓練が、安全面に配慮して実施できたか。</p> <p>訓練が、職員の危機管理意識を高めることができたか。</p> <p>同じような事故が再発しなかったか。</p>	<p><input type="radio"/>A <input type="radio"/>B <input type="radio"/>C <input type="radio"/>D</p> <p><input type="radio"/>A <input type="radio"/>B <input type="radio"/>C <input type="radio"/>D</p> <p><input type="radio"/>A <input type="radio"/>B <input type="radio"/>C <input type="radio"/>D</p>
<p>11 成果・課題</p>	<p>新しい救急体制での訓練を実施し、職員一人一人が緊急時の適切な動きを理解するとともに、緊急体制の確立の重要性について理解することができた。</p> <p>新型インフルエンザの予防という点では全職員の協力、保護者の理解を得ることができ成果があった。</p> <p>医療的ケアについては、担任、看護講師、保護者と連携をとりながらスムーズに取り組むことができ、日々、児童の体調を整えながら安心して学習活動を行うことができた。</p> <p>思い込みや慣れによる事故を防ぐ。</p>	<p>総合評価</p> <p><input type="radio"/>A <input type="radio"/>B <input type="radio"/>C <input type="radio"/>D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思い込みや慣れによる事故」については、「<input type="text"/>をしているから大丈夫」、「こんなことは起きない」という意識から、「<input type="text"/>があっても?」「起きないはずはない」という自問自答を繰り返すような職員の意識を変えるような啓発や指導を繰り返し実施していく。</li> </ul>		

### 学校関係者評価

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校においては、共通理解の場の確保、話し合う時間の確保が難しい現状があり、日ごろからの情報交換が重要である。</li> <li>・事故はつきものなので、緊急時の対応の仕方が大切である。思い込みや慣れに対する改善の必要性は、どこの場でもある。このことに気づき、マンネリ化の防止などに対応されている点は評価したい。</li> <li>・職員のなかで十分なコミュニケーションができることが大切である。起こりえることを想定して、気になったことをメモする等により、どんな些細なことでもヒヤリハットとしてしっかりとらえてほしい。</li> <li>・総じて、安心・安全な学校生活にしっかり取り組んでいる様子が窺われる。</li> </ul>
--

### 自己評価（その2）

<p>1 学校教育目標</p>	<p>創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>学習活動・家庭との連携</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育方針は、ほぼ理解頂けていると思われる。</li> <li>「3 特色ある教育活動」は、「C(あまり特色が無い)13%」と「E(不明)14%」が他の質問項目に比してやや多い。「他校との交流活動」「学校美術館」「キャリア教育」など、本校独自の教育活動を、更に充実・発展させていくことが望まれる。</li> <li>・家庭との連携については、概ね高い評価を得ている。</li> </ul> <p>「生徒対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や職員に対する信頼感、家庭との連携について概ね高い</li> </ul>

		評価を得ている。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と保護者・関係機関等との連携を図るとともに、個々の児童生徒の学習状況・生活年齢に応じた指導の工夫</li> <li>・体験的な学習をより多く取り入れた、個に応じた指導の充実</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程別に指導に当たっている職員グループの枠を越えた学部全体としての職員指導体制の充実</li> <li>・児童生徒の学習のつまずきを多角的に検討し、教員同士の指導の共通化や同一性を図るための検討会の実施</li> <li>・コミュニケーションツールの活用、学習用・作業用補助員の考案など、児童生徒一人一人の障がい特性に応じた支援のあり方に係る研究・研修会の充実</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育課程別グループにおける指導内容表の検討・作成</li> <li>(2) 個別の指導計画の学期毎の評価と次学期の目標設定</li> <li>(3) 児童生徒の障がいや学習の状態と程度に応じた教材・教具の工夫</li> <li>(4) 電子連絡網の導入と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 一人一人の児童生徒の障がいの状態や実態を把握し、個に応じた指導の実施状況</li> <li>(2) 授業の振り返り、学習の定着状況を確認しながらの授業実施状況</li> <li>(3) 児童生徒の障がいの状態や特性等を、保護者と十分に共通理解を図った上での教育活動</li> <li>(4) 電子連絡網への保護者加入割合と活用状況</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や教育課程グループ毎の職員組織で会議を開き、児童生徒の学習指導について検討した。また、「各教科等を合わせた指導」の指導内容表を作成した。</li> <li>・指導のあり方について保護者と担任との共通理解を図るため、学期毎に児童生徒一人一人について指導の経過をまとめ、保護者懇談会で保護者へ提供した。さらに次学期の指導の方針について学校と保護者間での共通理解を図った。</li> <li>・7月「保護者・生徒対象アンケート」、12月授業参観日に「保護者対象の授業アンケート」を実施した。</li> <li>・電子連絡網への加入について、各学部、PTA執行部会等を通じて依頼した。</li> </ul>	<p>わかる授業、楽しい授業に取り組むことができたか</p> <p>体験的な学習を取り入れた授業ができたか。</p> <p>生徒理解、保護者理解に心がけて指導できたか。</p> <p>教材教具は児童生徒一人一人に適したものであったか。</p> <p>電子連絡網への保護者加入状況・活用状況は充分であったか。</p>	<p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p>
11 成果・課題	<p>保護者と「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」の話し合いを通して児童生徒の指導支援の共通理解が図られた。</p> <p>実際に体験する学習を取り入れて行うにあたって、指導内容表、単元構成表の作成を進めることができた。</p> <p>電子連絡網を導入し、保護者、職員が加入することで、タイムリーな連絡を行うことができた。</p> <p>電子連絡網へは、更に多くの保護者の加入により本連絡形態が有機的に活用されていくことが望まれる。</p> <p>外部専門家（理学療法士、作業療法士、言語療法士等）を導入し、より専門的な観点から児童生徒の指導に生かせるような体制作りが望まれる。</p>	<p>総合評価</p> <p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p>
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家との連携を図れるようなシステムや窓口を検討していく。</li> </ul>		

## 学校関係者評価

### 【意見・要望・評価等】

- ・本日開催の卒業式の送辞に「自分らしさを大切に」というところがあり、先生方が普段から自分らしく生きることを大切に指導されていることが窺えた。また、答辞の「私たちには、それぞれの夢があります」という言葉はうれしく思った。
- ・外部専門家（理学療法士、作業療法士、言語療法士等）の活用について、社会福祉協議会の事業で協力できることもあると思う。また要望があれば、関市の「ふるさと福祉村」から関中央病院のPT、医師等の派遣が可能かもしれない。
- ・教育・医療・福祉が一体となり連携していくことが最も重要であろうと考えている。施設の地域相談員に声をかけてもらえば協力したい。
- ・関特別支援学校では、保護者と学校のコミュニケーションがよくとれており、保護者が学校についてよく理解し、双方が共通理解した上で教育活動に取り組まれている。PTAとして感謝している。

### 自己評価（その3）

1 学校教育目標	創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。					
2 評価する領域・分野	進路指導					
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路情報の提供」については、88%の保護者から「良好」の評価を受けている。今後も学校に対する期待を窺う事ができる。</li> <li>・「進路・関係諸機関との連携」では、「わからない」が昨年度に比べ減少（H20,21% H21,6%）し、保護者への情報提供が順調に行われてきている様子が窺える。</li> </ul> <p>「生徒対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の将来と自分の保護者との連携」については、93%の生徒から「良好」の評価を得ている。</li> </ul>					
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や関係機関等と連携した進路指導の充実。</li> <li>・社会的自立、職業的自立に向けて計画的な指導。</li> <li>・進路情報の積極的な提供。</li> </ul>					
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部を中心としてキャリア教育充実のため高等部、中学部間の連携。</li> </ul>					
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標					
<p>(1) 進学指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、短大見学、オープンキャンパス参加等</li> <li>・模擬試験、補習、面接指導、小論文指導</li> </ul> <p>(2) 就職指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補習(一般教養、作文)、面接指導、模擬試験</li> <li>・地域実習、進路体験実習</li> </ul> <p>(3) 市町村の担当機関や進路先との移行支援会議の実施</p>		<p>(1) 進路志望の具体的達成状況</p> <p>(2) 保護者と学校との連携状況</p> <p>(3) 保護者・生徒と、市町村・進路先との連携状況</p> <p>(4) 各部門における情報交換及び連携の状況</p>				
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者就業・生活支援センターとの連携により進路志望実現に向け支援を行った。</li> <li>・進路体験実習を計画的に行った。</li> </ul>	就職・進路志望先が生徒個々の実態に合ったものであったか。志望先の達成状況は満足	<table border="1"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">A</td> <td style="width: 20px; text-align: center;">B</td> <td style="width: 20px; text-align: center;">C</td> <td style="width: 20px; text-align: center;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D
A	B	C	D			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般教養や作文等の補習指導、面接指導、模擬試験を行うなど、個別の進路指導を行った。</li> <li>・居住地の福祉課等の協力を得て、移行支援会議が充実するよう努めた。</li> <li>・中学部2年生が、本校では始めて進路体験実習を行った。</li> </ul>	<p>できるものであったか。</p> <p>移行支援会議は、円滑な移行について実の伴なったものであったか。</p> <p>中学部の進路体験実習の取り組みは、主体的に学ぶ態度の育成に繋がるものであったか。</p>	<p><input type="checkbox"/> A   B   C   D</p> <p>A   <input type="checkbox"/> B   C   D</p>
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<p>中学部2年生が進路体験実習を行い、中学部と高等部の連携体制を整え、早い時期から自分に合った進路を考える機会を作ることができた。</p> <p>移行支援会議を実施し、学校と市町村の担当機関、進路先との連携をとることができ、円滑な移行への準備ができた。</p> <p>障害者就業・生活支援センターと連携し、生徒一人一人により適した就職先を開拓できた。</p> <p>確実に働く力を身につけるために、進路体験実習を計画的に行うことができた。</p> <p>小学部、中学部、高等部段階での、キャリア教育という視点でとらえたより充実した進路指導の推進</p> <p>卒業生への支援の在り方についての検討</p> <p>保護者へのさらなる情報提供</p>	<p>総 合 評 価</p> <p><input type="checkbox"/> A   B   C   D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の支援では、進路体験実習の巡回・付添指導と関連をもたせ計画的に実施していく。</li> <li>・「進路だより」や「進路説明会」を通して、社会参加・職業自立を図るための方策、関係機関との連携、学校と家庭との連携による生徒一人一人に応じた進路指導の在り方について、保護者に理解を求めていく。</li> <li>・各学部段階におけるキャリア発達能力の指標と指導の在り方について検討していく。</li> </ul>		

## 学校関係者評価

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援法から総合福祉法へ変わっていく中で、特に学校においては継続のための努力が重要と思われれます。一人一人のニーズや特性にあった仕事に就き、社会に貢献していけるような社会を作っていくことが必要です。卒業生の中には、4年間、自宅近くにある授産施設のショートステイを使いながら進路先へ通えるようになった人もいます。より多くの卒業生が、地域の中で過ごしていけるよう、学校が努力されていることに感謝したい。</li> <li>・在宅就労についても、研究の継続をお願いしたい。</li> <li>・就労に関しては、実際に対面して働くことでコミュニケーションが生き甲斐になる部分もあります。在宅就労は、就労の一つの選択肢として考えていってよいと思います。</li> <li>・企業の人事担当者の方に、障がい者についての知識や理解が不足している場合も、時として見受けられます。障がい者一人一人について、何ができ、何ができないかを知ってもらうことも大切です。</li> <li>・中学部2年生の進路体験実習は、中学3年生になって慌てなくてもよいし、本人の励みにもなると思います。将来は、地域で就労ができると良いと思います。</li> </ul>
---